

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4090800113		
法人名	株式会社 ホームケアサービス		
事業所名	グループホーム 三苦駅前 (北ユニット・南ユニット)		
所在地	〒811-0201 福岡県福岡市東区三苦4丁目8番1号	092-410-7233	
自己評価作成日	平成25年12月10日	評価結果確定日	平成26年02月15日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5-27	093-582-0294	
訪問調査日	平成26年01月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ひとりひとりが自分のペースでゆっくりと過ごして頂けるように心掛けています。その中で、持っている力を出来る限り活かしながら生活出来るように、環境を整えたり出来る事探しを行っています。食事は外部に委託していますが、食レクを月に2~3回行い、変化や楽しみを持たせています。お寿司や鰻などのお好きなものを提供するため、皆様楽しみに待たれています。さらに、家族や友人、地域との関係を断ち切らないように、行事への参加の案内や、個人別にご家族を招いてのお誕生会を行う等、交流の機会を定期的に設けてます。医療面でも状態の変化に素早く対応出来るよう、日々の状態把握に努め、主治医や看護師との協力を心掛けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

スーパーや商店が並び、西鉄貝塚沿線の、利便性の良い場所に、3階建て複合型福祉施設の中の2階に、2ユニットのグループホーム「三苦駅前」がある。念願の町内会に、利用者全員が加入し、地域の一員として、利用者と職員が行事や公民館活動に参加し、3事業所全体の秋祭りには、地域住民や、家族が参加し、保育園児や老人会の訪問等、活発な地域交流が始まっている。母体医療法人が、高齢者が地域の中で暮らし続けるための場所として、開設したグループホームは、協力医療機関の定期的な往診があり、看護師と介護職員の連携で、利用者の状況を判断し、「早期発見、早期治療」に繋げ、医療連携体制が充実し、利用者や家族の評価は高いものがあり、「ここを選んで良かった」という、信頼の絆に結び付いているグループホーム「三苦駅前」である。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目		取り組みの成果 該当するものに印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:30)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	次のステップに向けて期待したい内容
			実践状況	実践状況	
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	昨年の外部評価で指摘された後、皆で理念を作りあげた。現在はその理念を実践出来るように努めている。	ホーム独自の理念を、職員全員で考え、話し合っって作り上げた新しい理念の実践に向けて、職員は自立支援を念頭に、ここが皆の家であると考え、利用者一人ひとりに合わせた介護サービスの提供に取り組んでいる。また、会議の中で、理念が実践出来ているかを検証し、常に理念を意識した介護に取り組んでいる。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度より町内会に加入することが出来た。夜間を想定した火災訓練をおこなった際は町内より様子を見に来て下さったり、施設の秋祭りに公民館のサークルが参加されたりした。来年度は三苦地区がモデル事業Bに選ばれており、高齢者が安心して地域で暮らせるお手伝いをしていきたいと考える。	施設長の粘り強い働きかけにより、町内会への加入が叶い、ホームの秋祭りや敬老会に、公民館のサークルの方が参加したり、避難訓練の際には地域代表の見学をお願いし、非常時の協力をお願いする等、開設3年目を迎え地域の一員としての、交流が始まっている。また、平成26年度は、地域が高齢者のモデル事業Bに選ばれ、地域貢献が出来る機会と捉えている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設が出来て3年目になるが少しずつ、地域にも認識されてきたようで「すぐに利用するのではないが」と見学に来て下さる方がふえてきた。その際にアドバイスさせていただいたり、その後の変化の相談をを電話等でうけたりしている。行事等の参加のご案内も町内会等を通じておこなっている。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	その都度説明させて頂いている。報告にとどまらず、消防訓練、熱中症について、救急救命訓練、地域包括ケアシステム等の訓練や講習会を組みあわせて行うようにしている。また出た意見を取り入れるよう心掛けている。	併設の小規模多機能ホームと合同で、家族、地域の方、民生委員、地域包括支援センター職員参加の下、2ヶ月毎に開催している。ホームの運営状況や取り組みを報告し、参加委員からは、質問や要望、情報等を受けている。また、会議の中で、救急救命訓練や防災訓練、各種勉強会を行う等、議題を工夫し内容の充実を図っている。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	困難事例等は地域包括に相談を行い解決に向かうよう努めている。	管理者は、ホームの現状や困難事例を報告し、相談を行いながら、より良い介護サービスが行えるように連携を図っている。運営推進会議に、地域包括支援センター職員が出席し、ホームの現状を理解してもらう等、協力関係を築いている。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	目に見える身体拘束は行っていない。スピーチロックは出るときがあるが、極力少なくなるようにと皆で気をつけている。実践者研修等でもテーマとして取り上げアンケートや話し合いを行っている	職員は、研修会や勉強会を通じて身体拘束について学んでいる。身体拘束廃止マニュアルを基に、拘束が利用者にも与える影響の理解に努め、具体的な行為について話し合い、「待って」「動かないで」等、スピーチロックも含めた身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内外の研修にて学ぶ機会を持っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見制度を利用されてある方が4名おり、職員も理解している。研修等にも参加している。	現在、制度利用者が4名いて、職員は、制度の仕組みや内容、制度の重要性も周知している。利用者や家族が制度を必要とする時には、内容の説明や申請手続き、関係機関へ橋渡しができる体制を整えている。また、資料やパンフレットを用意し、何時でも、誰でも閲覧出来るようにしている。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は職員2名以上で、十分な時間をかけて説明をしている。解約や改定時も書面と説明にて納得していただけるよう心掛けている。		
10	7	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	食事は外注している為月に1度食事会議を開き入居者の意向が反映できるよう心掛けている。またご家族の面会時にもご意見やご希望を聞き取るようにしている。	家族の面会が多く、運営推進会議にも家族の参加があり、家族からの要望が多く出されている。利用者に対しては、日常の暮らしの中で、常に思いを聞き取り、特に食事に関しては、「同じ物が続く」「お寿司が食べたい」等意見が出ている。出された意見は検討し、出来るだけホーム運営に活かす取り組みをしている。	
11	8	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月のミーティングにて聞き取りを行い管理者会議等で意見を出している。社内にも相談窓口があり個別に相談が可能である。	毎月定期的に、日中にその日の出勤者を中心に職員会議を開催している。会議に出れない職員の意見を、事前に書面にて聴収する等の取り組みがあり、会議後も決定事項を会議録で伝達し、職員全員で内容を共有している。研修、行事、避難訓練等は全館で合同開催し、職員間の意見交換等の交流がある。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は必要に応じて管理者や職員の面談を行っている。また年間の研修予定を希望や能力に応じて立てるなど各個人がやりがいや向上心を持てるように努めている。		
13	9	人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	一切の排除を行っていない。また職員の個人の社会参加や自己実現の権利が保障されるように勤務表等で配慮を行っている。	職員の休憩室やロッカーを整備し、休憩時間や希望休に配慮している。職員の特技や不得手な事を考慮して、勤務体制や役割分担を決め、部屋担当制を採り入れ、意欲を持って働く事が出来る職場環境作りに取り組んでいる。外部研修にも積極的に取り組み、資格取得のためのバックアップ体制も整えている。また、職員の募集は、人柄や介護に対する考えを優先し、年齢や性別の制限はしていない。	
14	10	人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	内外の研修にて学ぶ機会を持っている。	会議や勉強会の中で、利用者の尊厳を守り、利用者が役割を持って、その人らしく暮らせる環境を整える事を繰り返し確認し、職員全員が理解し共有している。利用者を敬う気持ちを持ち、言葉遣いに気を配り、プライドを傷つけない介護サービスに取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の予定表を作り職員全員が研修を受けられるように心掛けている。また、内部でも感染症研習、救急救命講習、薬剤師による薬の知識等の研修等をおこなった。また、原土井病院内で行われている研修にも参加している。		
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内、系列内で4カ所のグループホームがあり交流の機会を持っている。講師を呼んでの研修や行事の際は相互訪問し互いに学んでいる。また同建物内には小規模多機能があり行事や研修は一緒に行っている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族のお話だけにならないように、ご本人からもお話を聞くようにしている。お話がしやすいように趣味や昔話から尋ねるように心掛けている。		
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期のご相談や見学の段階から、十分な時間をかけてご相談に乗っている。最初のご相談の後も、必要があればお電話をお掛けしてご心配なことがないかお尋ねしている。		
19		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	お話を伺う中で他サービスの必要があればご紹介等も行っている。		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ひとりの人としてご本人の思いを大切にしている。それぞれのユニットが職員も含め大きな家族だと思いながら共に支え合って生活をしている。		
21		本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族に勝る支えはないと考えている。共に本人を支えていけるようにご相談をさせていただいたりご協力をお願いしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご友人の電話や面会がとぎれないようお声かけをしている。	友人や知人、近所の方の訪問が多く、電話やお手紙もあり、職員は、関係が継続出来るよう配慮している。また、近所のスーパーに食べたい物を買に出掛けたり、利用していたデイサービスに遊びに行く等、利用者の馴染みの関係が途切れないように支援している。	
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	大きな家族として支えあったり助けたりの関わりが出来ている。		
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された方の病室を見舞ったりしながら経過のフォローを行っている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人とお話しをしたりご家族にも相談するなど出来る限り本人の意向にあった暮らしを考えている。また出来る限り残存能力をいかせるような介助を心掛けている。	アセスメントや嗜好調査等で、利用者の思いや意向を把握し、介護サービスの中で活かせるように取り組んでいる。また、思いや意向が表出出来ない場合は、家族からこれまでの暮らしを聞き取り、今までの積み重ねから、「こうしたいんじゃないかしら」と推測し、本人の思いに少しでも近づけるように努力をしている。	
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの暮らしの聞き取りを行い今の暮らしに活かせるよう努めている		
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子観察で気付いた事を連絡事項の用紙や申し送りで共有している。		
28	13	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	全員がカンファに参加することは難しいがご本人の意向は日々のケアのなかで、ご家族の聞き取りは面会時に、ドクターやリハビリの意見は往診時に聞き取りを行っている。その中で出た意見を介護計画に活かすように心掛けている。	利用者や家族の意見や要望を聞き取り、担当者とケアマネージャーが話し合い、主治医の意見を参考にし、介護計画の作成を6ヶ月毎に実施している。また、モニタリングを×にして記述欄を設ける等の業務改善を重ね、利用者により多く関わられるよう取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	連絡事項の用紙や日々の送りの中で情報の共有を行っている。また、介護計画が入居者の状態に合わせた物になるように見直しを行っている。		
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズに関してはご家族とも協力しながら対応を心掛けている。		
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人一人のこれまでの暮らしや関係を大事にし縁をつないで行けるように心掛けている。近隣の保育園の慰問や公民館サークル等のご協力も得ながら新たな縁も紡ぐ努力もしている。		
32	14	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人と家族が納得したかかりつけ医を基本としているがご希望に応じて往診医に変更された方も多い。かかりつけ医に受診する場合でも、ご家族に任せきりにせず、必要に応じ職員も一緒に付き添ったり、連絡を行う事で関係を築くように心掛けている。	利用前からの馴染みのかかりつけ医の受診は、家族同行で行われているが、管理者、看護師が付き添ったり、手紙をこつづける等の支援をしている。受診後は内容を聞いて情報を共有している。協力医療機関による月2回の往診と、看護師が2名勤務している事から、医療と介護の連携により、安心して任せられる医療体制が整っている。	
33		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は毎日、介護職員からの申し送りを受け、状態の変化をご家族や主治医に伝えている。また主治医からの指示で必要に応じた受診を行っている。		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時や退院時には十分な情報交換を行っている。またご家族の同意があれば病院で行われているカンファにも参加している。		
35	15	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医との面談の機会を設け早めの話合いを行うことを心掛けている。	ターミナルケアについては、契約時に、ホームで出来る支援について利用者や家族に説明し、承諾を得ている。利用者の重度化が進む中で、段階的に家族と話し合い、主治医も交えて今後の方針を確認し、関係者全員で共有し、利用者、家族の希望に出来るだけ応えるよう、環境の整備に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年、消防職員による救急救命訓練を行っている。事故の発生時の対応は各ユニットに対応の仕方のパンフレットを準備している。		
37	16	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協体制度を築いている	火災時の訓練は年2回行っている。地震や水害時の対応については地域でも対応方法が確立しておらず今後話し合いが行われる際に加えて頂きたいと願っている。	年2回、消防署の協力を得て、昼夜を想定した避難訓練を併設事業所と合同で実施している。建物2階の利用者の避難方法を消防署と確認し、「新鮮な空気が吸える場所に出たら大丈夫」というアドバイスから、火元から遠いベランダに誘導する事を共通認識している。地域の方に見守りの協力をお願いし、災害時に備えた備蓄もある。	
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳やプライバシーを守るよう心掛けている。接遇等の内部研修も講師を招いて行っている。	職員は、利用者人間関係を築く事から始め、何でも話せる関係の中で、個人的にトイレに誘う時には耳元でこっそり声掛けする等、利用者のプライドや羞恥心に配慮した介護の実践に取り組んでいる。また、職員の守秘義務については誓約書を取り、利用者の個人記録の保管についても外部の目に触れないよう配慮している。	
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来る限りの自己決定が出来るように心掛けている。聞き取りが難しい入居者様にたいしても表情の変化等を見ながら判断を行っている。		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活のリズムをつけるため、日中は起きて活動的に過ごしていただき、夜間あまり遅くまで起きていらしゃると声かけさせて頂くことはあるが、皆様は思い思いご自分のペースで過ごされている。		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本年度は資生堂の化粧療法を取り入れ行事のなかでおしゃれをする取り組みを行った。女性の喜びはもちろんの事、今まで顔を洗うことを嫌がっていた男性の入居者もホットタオルを使って顔を拭いて下さる等の成果が見られている。		
42	18	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は外注しているため自分達で作ることは難しいが月に何度かお好きな物を取ったり手作りの食事を提供するなどの食レクを行っている。また、毎月食事会議を行い入居者の意見を反映していただけるように話し合いを行っている。台ふきや下膳が出来る方にはお手伝いをお願いしている。	配食サービスを利用しているが、数名の職員が検食を兼ねて同じ食事を一緒に摂っている。利用者の意見を聞き、「付け合せがいつも一緒」「味が濃い」等、月に1回行われる食事会議で要望を伝え、随分と改善された。また、食事レクとして、利用者に食べたい物を尋ね、寿司や鰻、ピザを取って食べる等、食事を楽しむための支援も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事はカロリー計算されたメニューだが、入居者に応じてソフト食にしたり、食が進まない入居者は主治医と相談の上補食を行う等の工夫を行っている。場合によっては病院で嚥下の検査を行い適切な食形態をみてもらう事もある		
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ほとんどの入居者の仕上げ磨きに関わっている。歯科の往診を受け口腔ケアを定期的に受けられている入居者もいる。歯科医師の口腔内の細菌と発熱についての研究にも協力を行っている。		
45	19	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的にトイレにお連れするなど出来る限りトイレでの排泄ができるように心掛けている。	トイレでの排泄を基本とし、職員は、利用者の習慣や排泄状態を把握し、声かけや誘導を工夫する事で、車椅子の方も出来るだけトイレで排泄してもらえるよう支援している。職員は、利用者一人ひとりに合わせて、オムツやパットの種類を選択し、失敗を少なくする事で、オムツ使用の軽減に繋げている。	
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品の摂取や食事を提供している業者に野菜の量を増やして頂く等の工夫をしている。また毎日のラジオ体操、リハビリ体操で運動の維持を行っている。		
47	20	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	安眠につながるように入浴は午後に行うことが多いが一人づつゆっくりとおしゃべりをしながら楽しんでいただけるように心掛けている。	入浴は、週2～3回と決めてはいるが、利用者の希望を聞きながら、毎日入る事も、中止する事も自由である。利用者職員が1対1でゆっくり話が出来る入浴の時間は、利用者の思いや意向を聞き出す大切な時間である。また、入浴が嫌いな利用者には、声掛けを工夫し、利用者の自己決定を優先した入浴の支援に取り組んでいる。	
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	見守りや必要な介助のもと個々人に合わせたリズムで休息していただけるように心掛けている。		
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は状態の変化をみながら服薬をおこなっており、変化を細かく主治医に報告することで適切な服薬につながるよう心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割を持って頂き日々の生活が張り合いのあるものになるように努めている。お誕生日や行事にはご家族も招待し家族との交流を深めることで途切れがちな絆を取り戻して頂いたり食レクや行事を通じて楽しみを感じていただけるように心掛けている。		
51	2 1	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご希望のある方は職員が付き添い買物にできる事もあるが、友人や家族に協力を仰ぎ外出や散歩・ドライブをお願いしていることが多い。また施設の隣には畑を作っており収穫の作業を入居者に手伝って頂く事もある。	「お花をみたい」と言われる利用者と一緒に、近くのスーパーに出かけたり、大型ショッピングセンターに行くと、洋服を買うお手伝いをする等、要望に沿った外出の支援をしている。天気の良い日は、ホーム周辺の散歩や畑の手入れをしながら過ごし、友人や家族の協力を得て、ドライブに出掛ける等、利用者の生きがいと気分転換に繋がる外出の支援をしている。	
52		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者によっては現金を所持してあり買い物への支援も行っている。		
53		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	友人から定期的にお便りが来たりお電話がある方もいる。本人の希望があれば施設の電話を使い連絡を取って頂いている。		
54	2 2	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じる飾り付けを行ったり、季節ごとの貼り絵を入居者で行い掲示するなど心地よい空間作りを心掛けている。	3階建て建物の2階部分に位置し、室内は掃除が行き届き、明るく気持ちの良い環境である。季節毎の貼り絵制作に力を入れ、貼り絵の作品や利用者の笑顔の写真を賑やかに掲示し、家庭的な温かみのある楽しい共用空間である。	
55		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれにご自分が過ごす居場所があり、好きな場所で過ごせるように心掛けている。意思の表示が難しい方もひとりきりにならないように工夫している。		
56	2 3	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具やお写真お好みの飾り付けをお願いしている。	利用者が自宅で使用していた、馴染みの家具や仏壇、ウクレレや晝盤、家族の写真等、家族と相談して持ち込んでもらい、出来るだけ自宅のような雰囲気作りを心掛け、利用者が安心して暮らせるよう配慮している。また、洗面所やクローゼットが設置され、清潔で居心地の良い居室になっている。	
57		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	目の不自由な方でもトイレまでご自分で行けるように、伝いながら歩けるような手すりがついていたり、ご自分一人で洗面が出来るように各居室に洗面台がついている。また万が一転倒した場合も衝撃を和らげることが出来るように床にはクッション剤を使用している。		